

中国のネットメディアから覗く米中関税戦争

桜の季節は一瞬にして過ぎ去ってしまいましたが、黄金週 (GW のこと 注 : 本篇はこのような中国語的表現を多く使用) をどのように過ごされましたか。うちは久しぶりに娘が孫娘を連れて帰省し、「天倫之樂」を楽しんだところですが (「一家団樂の楽しみ」と訳されますが、もともとは李白の詩「春夜宴桃李園序」から出た詩的表現)。

米中関税戦争はいま酣 (たけなわ)、日本のメディアにも深さ、鋭さを感じさせる研究分析が次第に出ている。今回の参考消息は趣向をやや変えて、主に中国のニューメディア (ネットメディア、微信 WeChat などの SNS) に掲載された記事を取り上げたい。日本の中国研究は主として人民日報、環球時報など伝統メディアを対象としているが、以下の二つのアンケート結果は、中国世論の主戦場が完全に別の舞台に移ったことを示している。

一つは 6 年近く前のアンケート調査結果 (右)。圧倒的にニューメディアを主要な情報源と見なし、テレビと新聞雑誌を頼りにするのはそれぞれ 6.56% と 0.68% しかない。個々のネットメディア媒体のシェアは時期によって変動するが、伝統メディアは約 10 年前から大幅に退潮しており、趨勢は変わらない。

中国民衆の情報源

2019年11月29日付「光傳媒」サイト掲載の中国人の「情報入手」のソースに関するアンケートによると、SNSは圧倒的に中心になっている。

「微信WeChat」75.25%

「TIKTOK」は39.02%

「今日頭条」26.61%、

「微博」20.03%、

一方、テレビは6.56%、紙媒体 (新聞と雑誌) は0.68%、残りの4.24%は食卓、会議、家族等と挙げている (複数回答)。

もう一つ、昨年 12 月に公表された、言論 NPO と中国国際伝播集団が共同で行った「日中共同世論調査」の結果の一部、次頁の表に示される第 60 項目は「日中関係に関するインターネット上の世論が、民意を適切に反映していると思うか」だった。日本人は「適切に反映している」と回答したのは 24 年時点で 3.3% (23 年は 3.5%、以下、カッコ内はすべて 23 年)、「ある程度適切に反映している」が 16.4% (17.0%)、併せて 19.7% (20.5%) であるのに対し、「あまり適切に反映していない」「適切に反映していない」「分からない」他との回答は 8 割を占めた。

一方、中国人社会では、「適切に反映している」と答えたのは 30.0% (26.2%)、「ある程度適切に反映している」は 49.1% (46.1%)、併せて 79.1% (72.3%) であ

るのに対し、「あまり適切に反映していない」「適切に反映していない」「分からない」他と答えたのは2割台にとどまった。

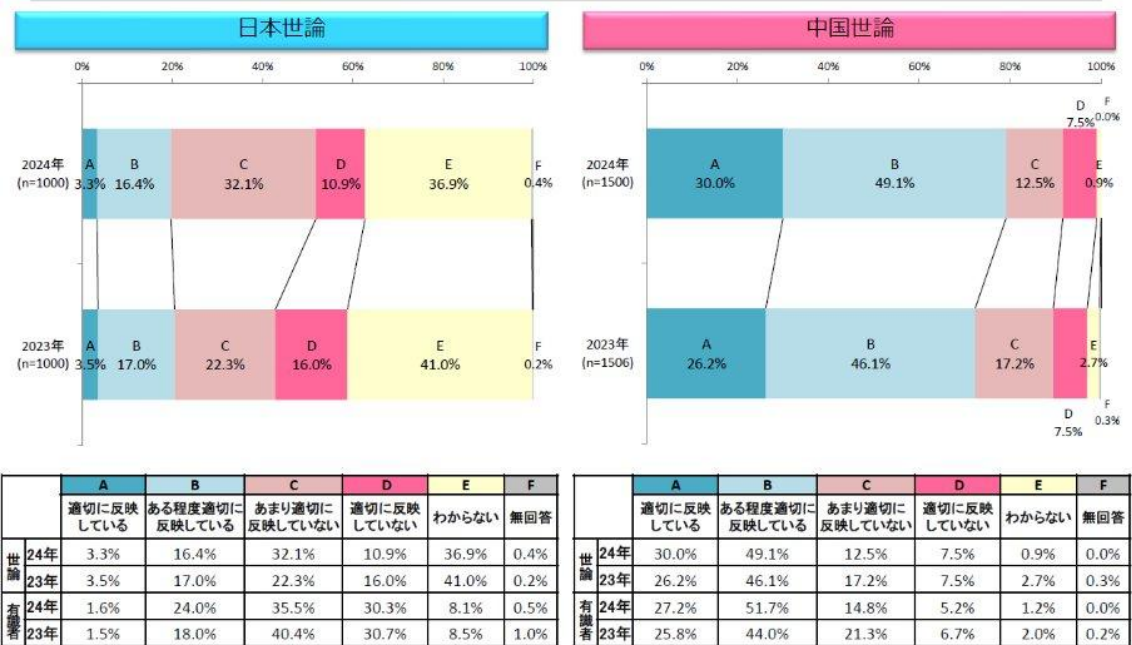
これは何を意味するのか。日中関係というテーマに限定した質問だが、日本社会では伝統メディアを主要な情報源と考えるのは8割近く、ニューメディアと答えたのは2割前後であること、対照的に、中国社会では7割以上の方はニューメディアを信用し、伝統メディアと考えるのは僅か2割台、全く逆の世論環境になっていることが明らかになった。

74

ネット世論は民意を反映しているか

言論
NPO

Q60.あなたは、日中関係に関するインターネット上の世論が、民意を適切に反映していると思いますか。
【単数回答】



その原因と背景分析は他の専門家に譲るが、二つ問題を提起しておきたい。
今の日本の中国研究分析はほとんどが中国の伝統メディアの発信を対象にしているが、それで中国の「民意」を本当に反映できるのだろうか。

別の派生的問題の出現にも気づいている。日本の一部の報道は中国のニューメディアの個別の言論を引用し、自分の結論の根拠としている。一見「民意」を反映しているが、実際は中国のニューメディアは日本の世論と同様多様化しており、その「百家争鳴」の意見から自分に都合の良い部分だけをピックアップすることはいくらかでもできるが、「中国の国民はこう見ている」と結論付けるのは無知によるものとして済まされるのか。日本社会をミスリードしてしまうのではないか。

私はこのような疑問を以前から持っており、今回の米中関税戦争に関する中国の「世論」は新聞雑誌とテレビなど伝統メディアとニューメディアでは「建前」と「本音」のように分かれているため、後者を通して中国の学者、研究者が吐露した本音とその思考様式、捉え方にスポットを当てるのも面白いと考えた。このケーススタディを通じて、「中国世論の読み方」を改めて一緒に考えてみたい。実はなかなか「楽しい」話題なので、最後までお付き合いください。

一 中国研究者の大半が知らない中国のネット代用語・流行語

「中国のニューメディアでよく出る『東大』はどういう意味か」

この質問を複数の中国にかかわる研究者、記者の友人に投げかけたが、正解はほとんど出なかった。ただ、質問を横で聞いている中国人はみなニヤニヤ笑っていた。

この表現は、中国の伝統メディアでは決して登場しないが、ネットメディアでは知らない人がいないほどの常用語になっている。

「東京大学」ではもちろんない。まず中国のネットメディアで親切に説明される「東大」「南大」「西大」「北大」などについて紹介する。

① 网络上大国梗解析 241124

<https://www.toutiao.com/w/1815343176326156/?wid=1746414291263>

東大：東方にある（神秘的）大国、中国を指す。

西大：西洋の大国、米国を指す。

北大：北の大国、ロシアを指す。

南大：南の大国、インドを指す。

ほかに諧謔的に次の3種類の「大国」がよく登場する。

「油管五常」(YouTube上の五大「常任理事国」): YouTubeで常に自己主張する5つの国、韓国、ベトナム、インド、トルコ、ポーランドを指す。

「宇宙大国」: 自らを宇宙での最強国と考える（と中国のネットユーザーが揶揄する）韓国を指す。

「乱認爹大国」: 歴史上の強い国や文明をやたらに自分の祖先として囲い込む国のこと。東洋では韓国を指し（高句麗、渤海など歴史上中国東北部に存在した国々をすべて自国の祖先とする）、西洋ではトルコを指す（匈奴、東胡、鮮卑、柔然、突厥、契丹、蒙古、オスマン帝国を含む16の古代遊牧帝国とも自国の祖先と主張）、という。

ではそもそもなぜ中国自身のことを「東大」と呼ぶのか。

② [东大是什么意思-HTML 建站博客](#) 240718

この記事では、「東大」は近年、まず「知乎」とTiktokのサイトで使われ始め、

今や当たり前のように使用する表現で、東洋の神秘的な大国、東洋の大国の意味であり、いくぶん皮肉と諧謔的意味を含めた非公式な呼び方と説明されている。

筆者の理解では、ネット世界では、政府や公式の場合に使う「中国」という名称は「あらたまった」やや硬い表現だと感じられ、またそれは「第一人称」的に、「我が国」というニュアンスだと受け止められている。それに代わって「東大」は少し柔らかく、また「第一人称」の「I」「We」ではなく、「It」を語る感覚を持つ。ネットユーザーの多くは自分が国を代表するのではなく、客観的に中国に言及するのが好ましい。他方、「東大」に幾分か誇りもにじませている。

この言葉は公式の場、伝統メディアでは一切使われないが、2006 年に「天涯論壇」という書き込みサイトで初めて登場し、当初はインドを指していた、という。いつもその社会制度を自慢し、間もなく中国を経済面でも超えるとほらを吹くインドを皮肉った表現だった。いつの間にか「東大」が中国自身を指すようになったが、その変化の経緯は検証されていない。

以下の記事は中国に関して古来、18 の呼び方があると挙げ、「東大」や「種花」（中華と同じ発音）、「龍国」「熊猫国」など網民の最新用語を紹介している。

③ [你绝对想不到！中国竟有 18 个别称，每个都超有故事](#) 241219

特にネットメディアのアニメでは中国は「兔子」とよく呼ばれている。これについても解説するネットユーザーがいるが、関心ある方は自分で調べてください。

ちなみに、自嘲的、批判的な表現としてたまに「西朝鮮」「五星越南」という表現も見られる。

一方、記事の文末に「支那」も列挙され、「もともとニュートラルな意味だったが、近代日本では差別用語として使われたため、中国人に嫌われるようになった」と説明している。

自分は 20 数年前、なぜ「支那」という表現が中国で嫌われたかを検証したエッセイを『論座』誌（すでに廃刊）に書いたことがある。ネットで調べたら、赤旗紙ではその経緯を説明した記事があった。

④ [日本共産党・知りたい聞きたい／「シナ」ということばが差別的とは？](#)
990429

終戦直後の昭和 21 年 6 月、中国側の申し入れを受けて、日本外務省事務次官の名義で内閣書記官長を通じて各新聞社に中国を指す表現として「支那」を使わないよう要請した文書もあった。

⑤ [「支那（シナ）」という語はなぜ侮辱語とみなされたのか：damao の在学](#)

中文 170701

岡崎総務局長より

「中華民國の國名として支那といふ文字を使ふことは過去に於ては普通行はれて居たのであるが其の後之を改められ中國等の語が使はれてゐる處支那といふ文字は中華民國として極度に嫌ふものであり、現に終戦後同國代表者が公式非公式に此の字の使用をやめて貰ひ度いとの要求があつたので今後は理屈を抜きにして先方の嫌がる文字を使はぬ様にしたい」

との発議を受け、事務次官から内閣書記官長に対し、以下に通達した。

支那の呼稱を避けることに關する件

本件に關し外務省總務局長から六月六日附で都下の主な新聞雑誌社長に對し念のため寫のやうに申送つた。右参考のため御送りする次第であるが、機會があつたら御關係の向へも同様御傳へを得たい。

外務省が以上の通達を出す背景は、中国側の申し入れを受けて GHQ が日本政府に禁止令を出したからだ以下の記事が伝えている。

⑥ 日本語から「支那」が消えたのはいつか_人民中国 100608

戦後、東京駐在の軍事代表団が東京に到着した時、あるメディアが「支那」という言葉を使ったため、すぐに戦勝国として同盟国の占領軍に禁止を求めると、米国占領当局は日本政府に命令を出している。

なお遑って、別の研究者は外務省外交史料館から、外務省記録「各国国名及地名呼関係雑件」のなかに、「支那」の使用に対する中国側の抗議を受けて 1930 年（昭和 5 年）10 月に、浜口雄幸内閣が中国の呼称を常則として「中華民國」とするとの閣議決定を行ったとの記録が残っていることも明らかになった。

⑦ 戦前に、中国の呼称を「支那」から「中華民國」に変更した経緯を示す記録はありますか。 | レファレンス協同データベース

礼儀を重んじる日本において、このような経緯を知らながら「『支那』を使って何が悪いか」と言い張る人がいれば、何の目論見か聞きたい。

次は中国のニューメディアで流行るアメリカに関する呼び方を見てみよう。

⑧ 中国人对美国の 14 个称呼 220718

<https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?q=%e7%be%8e%e5%9b%bd%e7%9a%84%e7%a7%b0%e5%91%bc&mid=406FCDD3AE20F08793AF406FCDD3AE20F08793AF&mcid=7AFCA55E4CF6405E823516E0ABE08D9A&FORM=VIRE>

中国では米国に関して 20 世紀前半まで、「弥利堅国」「米国」「花旗国」など、新中国の米中対決期では「美国佬」「美帝」「紙老虎」など、近年のネット世界では「灯塔国」（自称「民主主義の灯台」に対する揶揄）、「漂亮国」（表は美しく見

える国)、そして「鷹醬」など、計 14 の呼び名がある、という。

そのうち、「鷹醬」(インチャン)は特に最近、ネット世界でよく使われる。以下の中国版グーグル「百度」は次のように解説している(大意)。

⑨ [鷹醬 百度百科](#)

もともと中国の漫画シリーズ『那年那兔那些事儿』(2011 年より)に登場するキャラクターで、地球上の 5 人の大ギャングのうちの一人(元リーダー)で、自己中のアメリカ(イーグル=鷹)が原型。第二次世界大戦後、地球上の最強国になり、数え切れないほどの「キノコ卵」(原子爆弾の隠語)を持って、しばしば他人を脅かし、正義を標榜するが、資本の独占が最優先、というイメージ。それ以後、ネット世界では米国の代名詞になった。「醬」は音が日本語の「ちゃん」に近く、乱暴で自惚れるがどこか憎めないやつとのニュアンス。

鷹醬という呼び名(あだ名?)がネットで広く使われていること自体、中国の若い世代は、前の世代の持つ(米国に対する)畏怖の念がなく、猛々しさを見せようとするがどこか滑稽、という米国イメージを持っていることを意味する。

これは米中関税戦争における中国のトランプイメージとも重なっているように感じられる。

ちなみに、「日本」は中国のネット世界でどう呼ばれているか。かつて「小日本」「日本鬼子」など(戦争に由来する感情的)差別的用語が氾濫していたが、今では公の場では使用禁止、「～鬼子」はネット用語としてもブロックされるようになった。それに代わり、ネット世界では「小日子」が一部使われている。

⑩ [为什么“小日本”“日本鬼子”现在都变成了“小日子”了? - 知乎](#)

この記事の本文の最後に、その出処は日中の「賽艇(ボート競技)」試合後のエピソードに一言触れているが、北京の友人の説明によると、試合後に中国側選手がテレビインタビューで「小日本」を言いかけたが、「小日」と話す途中、禁止令を急に思い出し、「小日子過得不錯」に言い換えたことに由来する、という。

もう一つ「本子」との網民の呼び方もある。もともと「ノート」の意味で、日本人はいつでもすぐノート(手帳)を取り出してメモをすることが由来の説と、日本発ポルノ(「本子」と呼ばれた)が中国で一時期氾濫した由來說があると以下の検索記事が紹介している。

⑪ [为什么日本被叫做本子 百度知道](#)

ネット世界で日本がこう呼ばれていることに気を悪くする人がいるかもしれないが、まじめな政治経済外交の話題では依然「日本」を使用していること、ネット世界では「くそ真面目」な言い方はかえって敬遠されるため、ふざけた表現

になっていることを知っておいてもよいだろう。新旧メディア両方での表現、議論を知って初めて中国がもっと立体的に見えてくるはずだ。

筆者が日本にやってきた 1980 年代、日本でも新語、造語、若者の流行語が溢れ、この現象は一部の伝統維持派から批判を受けたことを記憶している。自分は当時、中国の固い言語、語彙の現状に比べ、時代感ある新語が続出する日本のほうが羨ましく感じた。今や、中国がネット時代に突入し、新しいネット用語、流行語が次々と現れることは、社会環境の大変化、民間世論の多様化と活発化の現象と前向きに受け止めている。これらの新語と流行語に関しては、中国の伝統メディアは日本に見倣って、いや今は日本よりも積極的に収集・整理し、毎年「最新流行語」として紹介している。以下の四つの記事は、中国の最新のネット用語、流行語を収集・解説している。興味ある方はご自身で研究されたい。

- ⑫ [小嗨词典 - 网络热词|热梗|流行语大全](#)
- ⑬ [100 个网络热门梗大全 2024 - 集说说](#)
- ⑭ [2025 最流行的网络热梗、流行语大全](#)
- ⑮ [网络流行语解释 - 热梗百科](#)

二 米中・対米の認識を示すニューメディアの表現

中国では近年、石峁（shimao セキボウ。陝西省）遺跡、陶寺遺跡（山西省）などピラミッド・始皇帝陵クラスの 4000 年より前の大遺跡の発見と発掘が進められている。去る 4 月末、「中国文明起源研究工程（第 6 段階）」が正式にスタートし、「中国文明の起源、形成、発展、その内部メカニズム、さまざまな地域の文明の進化の道筋などの課題に取り組む」ことにもなっている（[中华文明探源工程第六期研究计划确定 中国政府网](#) 250426）。かつて『[夏王朝は幻ではなかった：1200 年遡った中国文明史の起源](#)』（柏書房、2005 年）を翻訳した自分はその新しい研究成果に期待を寄せている。

中国は長い歴史を有するゆえ、トランプ大統領の言動、パフォーマンスなどはすぐ中国の歴史上の事件や人物に譬えられたり、比較されたりする。このような表現から、トランプ氏の言動に対する中国側の捉え方も伝わってくる。

- ① [For China's Trolls, 'Chairman Trump' and 'Eyeliner Man' Are Easy Targets](#)
[“川主席” “眼线男” 万斯：特朗普政府在中国遭群嘲-纽约时报](#) 250424

この NY タイムズの記事はトランプ、バンス（副大統領）が中国で広く嘲笑・揶揄されている事情を取り上げ、米国的な目線で背景分析をしている。そのうち、以下の指摘はある程度当を得ていると思う。

さまざまな政治的見解を持つ中国のネットユーザーらは、トランプ政権への軽蔑

という点で一致し、印象的な作品シリーズを作成した。これらの画像、動画、音楽のほとんどは人工知能によって生成されたもので、中国人から見てばかばかしく恥知らずの米国指導者の政策や発言を嘲笑している。

これらのいたずらは、米国に対する中国の見方の変化を反映している。トランプ政権は中国に豊富な材料を与え、北京が道徳的に優位に立つことがかつてないほど容易になっている。

同時に、中国人が小学校から教科書で読んだ歴史や、知らないと笑われる中国の歴史的常識に照らしながらトランプ政権とその言動を対比的に見ている、という側面にも触れたい。ここではいくつかの対照例を紹介する。

一つ目は「トランプと光緒帝の戊戌（百日）維新」

② [清末的剧本！美国特马的百日维新开始了 | 网易订阅](#) 250209

要旨：

帝国の末期には奇妙なことが多く、「帝国終焉症候群」と呼んでもよい。

米国の識者は山積する問題に気づいていた。だからトランプ氏やマスク氏は大ナタを振るった改革に出た。彼らの本意は間違っていないが、「危篤者にやたらに劇薬を飲ませる」かのように、使っている方法は荒っぽい。光緒帝がやった「百日維新」にどこか似ている。

光緒帝も思い切った改革を断行し、103 日間で 184 通もの勅令を發布し、1 日平均 1.7 通だった。最も多かったのは 9 月 12 日、11 の重大な改革に関する勅令が發布された。改革勅令には、余剰人員の削減、科举制度の廃止、財政・軍事・教育制度の改革などあらゆる面に及んだ。

光緒帝と似ている二点目は、若者を重用したこと。康有為を除き、帝が任命したのはほとんど熱血青年。梁啓超は当時 26 歳、六君子の一人林旭は 23 歳だった。

マスク氏の率いる行政効率部門（DOGE）のエリートチームも情熱溢れる若者 6 人だ。うち最年少は 19 歳、最年長は 25 歳だった。

以下はトランプ改革の「間違っていないが急がば回れ」の一連の改革を紹介し、最後に見通しを示した。

四つ星将軍を含め、米軍には 1 万 5000 人ものトランスジェンダーやインターセックスの者がいる。これらの人々は米軍の風紀と士気、戦闘効率に大きな影響を及ぼしている。（中略）

光緒帝は自分が皇帝で、



すべてを動かせると錯覚したが、清朝の実質的な支配者は西太后を中心とする保守勢力であった。1898 年の改革運動は既得権益層の反発を招き、103 日後に失敗に終わった。

トランプ大統領は自分が大きな権力を握っていると思っているが、アメリカ政治の舞台裏にいる本当の大物たちを敵に回しているのではないか。結局のところ、大統領は交代するが財閥は変わらない。トランプ氏とマスク氏は危ない。



二つ目は「トランプと西太后」

トランプ大統領は4月2日、全世界を相手に関税発動を発表し、「解放の日」と自称した。中国ではさっそく1900年の義和団運動当時、西太后が各国列強に宣戦布告を敷いたことが連想され、左のイラストがネットに回った。(左)

三つ目は諧謔的な「関税帝」

三国史の関羽は死後どういうわけか、金儲けの神様に変身し、横浜中華街でも祭られている。「関羽」と「関税」が似て

おり、同じく金儲けのためとの意味を込めて、トランプ氏は「関税帝君」と呼ばれている。(右)



ちなみに、中国外交部報道官毛寧氏のツイッ



ターでは、中国に対する高関税で「再びアメリカを偉大に(MAGA)」の帽子が値上がりしていると揶揄するイラストが載せられている。(左)

四つ目は「トランプ文化大革命」

トランプ氏がやっている、国内を大混乱に陥れる大改革は中国の文化大革命に似ていると、中国だけでなく、欧米メディアでも議論されている。元中央党校の研究者でアメリカに移住した著名な評論家鄧聿文氏は両者の比較を真剣に行っている。

③ [客座评论：特朗普治下美式“文革”和中国文革的异同 - DW 2025 年 5 月 5 日](#)

フランスの中国専門家 Michel Bonnin もそのような比較をし、「トランプ文化大革命がもたらす文化、道徳、法制と制度上の破壊は修復できないほど深刻」と指摘している。

④ [法漢學家潘鳴嘯：特朗普革命帶來的破壞將難以修復 rfi250317](#)

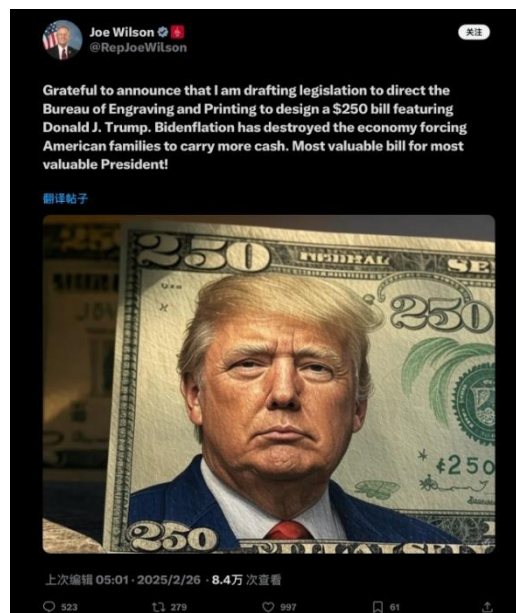
中国のネットで取り上げられているトランプ政権と米中関係に関する面白いイラストや記事も二つ紹介する。

「トランプ礼賛」

⑤ [特朗普执政百日内阁会议变“夸夸群”，外国网友：一出荒诞剧 澎湃新闻 250502](#)

トランプ執政 100 日における閣僚会議の「肉麻的」礼賛発言の録画だ。

トランプ氏の顔を入れたドルの新札を発行しようとの提案も上院議員から出ている。(右)



「米中とも相手になりたい」

「中国は特に消費大国になりたい。米国は特に製造大国になりたい。両方とも自国のこれまでの生き方が嫌になったみたいで、相手国に成り変わりたい」(右)。このようなユーモラスな書き込みは中国のネットメディアでは毎日のように出てくる。実に飽きない。

中国特别想变成消费大国，美国特别想变成制造大国，大家可能都有点活腻了，都特别想活成对方的样子。

以下はトランプ政権の関税戦争に対して中国はなぜ強硬に対抗し、一步も譲らないかについて、中国のニューメディアで学者・専門家が使った印象的な表現を通じて、その発想と思考様式にアプローチしたい。

一つ目は「打得一拳開，免得百拳来」

この表現は 1950 年 10 月、米軍（国連軍）が 38 度線を越えて北進した際、中国首脳部内の大半は参戦に反対・躊躇したのに対し、毛沢東主席は参戦すべきと堅持し、みんなを説得した時に使ったもの。「一回、大きな犠牲を払って果敢に戦うことにより、相手に今後、中国を侮る気を生じさせない」との考え方で、後々まで中国首脳部の政策決定の思考様式に影響を及ぼしている。

⑥ [50 年新中国为何一定要抗美援朝？毛主席：打得一拳开，免得百拳来 | 人民军 网易订阅](#) 241027

その経緯を紹介したこの文章は最後の結論としてこうまとめた。

新中国はこの戦争で多大な被害を受け、社会経済基盤の発展に使われるはずだった資金が戦場に使われ、10 万人以上の兵士が犠牲になった。しかし、米国と渡り合い、戦争の試練に耐えたことで、多くのもの、予想以上の収穫があったと言える。大規模戦争の経験を積みながら、国内経済を発展させた。その間、初の 5 カ年計画、「社会主義的改造」を実施でき、強固な社会主義的基礎を築いた。

さらに、新中国の主権と尊厳を守り、近隣諸国との友好を深め、新中国を全世界に知らしめた。死を覚悟して自国の主権を守ろうとする決意を十分に示し、米国に対抗できたとの強さであらゆる国の人々の尊敬を勝ち得た。

1962 年の中印国境戦争の時も、（中国から見て）インドに次々と国境線を侵食されることに對し、一回相手を懲らしめて「国境の平和を少なくとも 30 年間確保する」との毛沢東主席の考えにより、大反撃戦を発動した、という。

⑦ [毛主席：要打就打出我们的威风，起码保证 30 年和平 - 今日头条](#) 210909

今回のトランプ氏が仕掛けた関税戦争に対して、中国は一年前からあらゆるシナリオを想定して対策を用意した上で徹底抗戦を宣言した。これも「決意と忍耐力を示し、トランプ政権に『中国を脅かしても効果なし、交渉する気なら真剣にやれ』の気迫を見せる」ためだと中国ネットメディアではこの表現をよく引用して解説された。元重慶市長の黄氏の以下の講演録画でもこの発想に言及。

⑧ 黄奇帆内部讲话录音：中美贸易战，打得一拳开免得百拳来！ 2504

https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?q=e2%91a7+%e6%89%93e5%be%97e4%b8%80e6%8b%b3e5%bc%80ef%bc%8c%e5%85%8de5%be%97e7%99%be%e6%8b%b3e6%9da5ef%bc%9ae4%b8%ad%e5%9b%bd%e5%a6%82e4%bd%95e6%89%93e7%a0%b4e7%be%8e%e5%9b%bd%e7%9a%84e8%ae%b9e8%af%88e5%89a7e6%9cac_%e8%85%be%e8%ae%af%e6%96%b0e9%97%bb&mid=E465F346EB5A4991CC18E465F346EB5A4991CC18&mcid=ECA293E3308B4AC0BAA51C7460E34F92&FORM=VIRE

二つ目は「今日割五城，明日割十城，然后得一夕安寝」

2200 年前、秦王（後の始皇帝）が他の国に対して大軍を出動して圧迫し、「五つの城を明け渡したら兵を引く」と「ビッグディール」を要求するが、目の前の危機・苦境から抜け出すため、各国君主は強敵の前でいずれも我慢・妥協の道を選び、条件に応じれば安寧が得られるだろうと考えた。しかし（五つの城を明け渡した）その晩は安眠できたが、翌朝になると、秦の大軍は再び迫り、更に 10 の城を要求してきたのである。貪欲な秦国に対して、目の前の利益や一時の安寧を望んで譲歩を重ねる各国君主の無能が、最後に亡国の運命を招いたのだ、と喝破した宋代の蘇洵の名作「六国論」は中国で広く読まれており、自分も小学生の時代に暗唱したことがある。

⑨ [今日割五城，明日割十城，然后得一夕安寝。全诗赏析 中国古诗词网](#)

これを引用して当面の対米貿易関税戦争につき、中国がとりあえず譲歩・妥協しても、すぐ次に新しい要求を突き付けられるので、最初から徹底抗戦するしかないとの「戦略的判断」の根拠を論じたネット記事が複数出ている。

⑩ [从《六国论》看中美贸易战中的战略选择](#) 250410

「この名文は千年以後の米中貿易戦争において驚くべき現実的示唆を示した。現在の米中ゲームの複雑さは、戦国時代の六カ国が秦に賄賂を贈った歴史と時代が違うが、安全保障と引き換えに妥協することは持続不可能というその核心的な論理は共通している。」

安易な妥協では真の平和が得られず、との発想により、中国外交部は 4 月 29 日、「不跪（跪きをしない）」と題する英語字幕付きの 2 分間の動画を公開した。ぜひ以下の URL リンクをクリックして見てください。

⑪ Ministry of Foreign Affairs: China won't kneel down!

<https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?q=China+don%27t+kneel+down&mid=D186D70B319EE7AF7B7AD186D70B319EE7AF7B7A&mcid=D9615E7CEFC447B98B1F663F2C9768FD&FORM=VIRE>

この動画は中国自身の姿勢を示すだけでなく、諸外国も米国に「跪い」たら「自分だけは許される」甘い考えを持っていては一段と押し切られるよ、と説得していると、以下の台湾紙掲載のコラムニストの記事は解説した。

⑫ [尚青論壇》中國一聲「不跪」 激勵反美霸權（何溢誠）](#) 250504

三つ目は「一代人有一代人的上甘嶺」

「上甘嶺の戦い」は韓国では三角高地の戦い（삼각고지 전투）、英語では「Battle of Triangle Hill」と呼ばれるが、朝鮮戦争が膠着状態に入った 1952

年夏、米軍と韓国軍が発動した「Operation Showdown」作戦の一部。米軍側が圧倒的な軍事力で 900 回以上の攻撃を仕掛けたが、中国人民義勇軍は必死に抵抗し、42 日間の激戦を経て双方とも数万人の死傷者を出し、最後に中国軍は陣地を守り抜いた。それで「巨大な犠牲を払ったが、絶対譲ってはならない一線を守った」との意味で「上甘嶺の戦い」の表現がよく使われる。

そしてどの時代でも「歯を食いしばって戦い抜かなければならない時がある」との意味で、今回の対米関税戦争においても引用されている。

⑬ [“一代人有一代人的上甘岭”，说得真好 红网 250413](#)

「上甘嶺の戦い」は抗米援朝戦争の同義語であり、中華民族が極悪を恐れず、山ほどの困難に直面しても悲壮に戦い抜いた精神の記念碑だ。

中国外交部は 4 月 11 日、関税戦争や貿易戦争に勝者はいない、闘いを望まないが恐れもしないと表明した。今日頭を下げたら、次は我々の首が切られるかもしれない。

「闘って活路を求めれば生き残るが、譲歩・妥協ばかりしては亡びる」。無数の歴史的事実はこれを証明している。

4 月に北京で日中の企業家、学者による会議に参加した際、「日本は米国と粘り強く交渉し、妥協・合意を求めるが、どうして中国は徹底抗戦の姿勢なのか」との質問が出た。中国の元大使の回答はまさに「闘って活路を求めれば生き残るが、譲歩・妥協ばかりしては亡びる」との趣旨であった。

一か月以上の「チキンゲーム」を経て、米中両国の経済貿易担当責任者はようやくスイスで会談することになった。中国側は「要請を受けて」として米側が先に折れたことを暗示するが、米側は「双方ともヨーロッパ訪問の予定でたまたまスイスで会談ができるようになった」と説明している。いずれにせよ、双方がテーブルに着いたことで世界各国はいくらかほっとしている。

すぐに合意することはあり得ず、再度の紆余曲折、スリリングな駆け引きも十分に考えられるが、双方とも正面衝突を望んでいないこと、中国側は「闘って初めて活路が見出される」との発想を持つものの、「無理心中」を絶対したくない、という思考回路である。その背景には中国はすでに簡単に負けない経済・技術体制を構築したこと、関税合戦では痛み分けでも中国側にはもっと忍耐力があることなどが挙げられる。以上のように、中国のネットメディアでよく使われる用語を通して、読者諸賢の中国側の発想、闘い方の理解増進につながれば、このエッセイの意図するところは達成されたといえよう。

以上、A4 の 10 枚を超える長文になったので、米中、日中、中国経済などのホットな話題に関する資料の紹介と分析は次号に譲りたい。どうぞお楽しみに！

(了)